百々裏話（18）

おもて　あきら

班女

この曲の冒頭の間狂言セリフを、観世流謡本は記載しているが、他流の現行謡本は載せていない。憎々しい野上の長者の追出しのセリフがあつてこそ、迷い出るシテの哀れさも印象づけられるのであるから、謡本が能の台本であるとしたら、このセリフは当然記載されているべきであり、他流の謡本がそれを省略していることは、謡本が〝うたい〟のテキストとして作られたもので、能の台本ではないことを物語つている。観世の謡本も、班女の間狂言セリフこそ載せているが、他の曲の場合には必要な間狂言や脇のセリフを省略している例が多く、〝うたい〟のテキストであることに変りはない。一体、脇や間狂言のセリフが曲によつて記載されたりされなかつたりするのは、室町期の写本以来のことで、どこに基準があるのかはつきりしない。むしろ偶然的なものであるとの感が強く、江戸初期以後の版本はそれをただ踏襲しているに過ぎないようである。観世流の班女に間狂言セリフがあるのも室町末期の写本以来のことであり、近年の工作ではない。下懸りの謡本でも車屋本などは間狂言セリフがあり、版本になつてから省略したものらしい。

ところで、狂言方の大蔵流・和泉流のセリフによると、班女のシテは花子が本名で、あだ名が班女らしいが、そのあだ名の由来について、大蔵流はワキの吉田少将が「扇に子細ありとて花子を班女と御呼び候」と説明する（謡曲大観所収本、その他。現在の大蔵流もそれと同じ筈）が、和泉流では、「花子と申す人は幼き時より扇に好き、朝夕手馴れ申さるる」によつて皆々から班女と呼ばれたと言い、吉田少将に逢う以前からのあだ名であるらしい。観世流謡本所載の間狂言セリフは、あだ名の班女について一切ふれていないので、曲全体の詞章から推測して、狂女になつてから都方がつけた異名であるとも、少将の形見の扇を抱いていたことから傍輩に班女と呼ばれたとも解され、少々曖昧である。

大蔵流・和泉流・観世流謡本の班女間狂言セリフのうち、どれが古い形を残しているかと言うと、和泉流のセリフである。大蔵流の古い間狂言本を調べてみると、貞享二年松井兵右衛門本など、和泉流と同じ様に、少将に逢う以前から班女と皆々に異名されたようになつている。車屋謡本の間狂言セリフも松井本と同一であるから、これが大蔵流の（同時に下懸りの）古い形に相違あるまい。「班女」なる語は男に捨てられた女の代名詞のように使われていたのであるから、吉田少将自身が花子に班女のあだ名をつけたという、江戸後期の大蔵流のセリフは、改悪の甚しい例であ

第七回華の会公演予定

夫丞　筒腕荷（能）
夫之万静　井空（狂言）
夫寿　恋重（能）

12月21日（日）2時
於観世会館

―同人―
一噌幸政　観世寿夫
鏑木岑男　観世静夫
観世元信　北村治
後藤栄夫　瀬尾乃武
野村万之丞　野村万作
宝生閑　三須錦吾

ろう。

現在の観世流謡本の間狂言セリフは、光悦本や元和卯月本以来ほとんど同文で、かなり古い形を伝えたものであるが、室町期の古写本では、大蔵流古写本や現在の和泉流のセリフと同じく、以前から班女と呼ばれていた文句であり、上懸り下懸りともそれが古い形であつたものと信じられる。

帰路途中のワキ吉田少将が野上の宿に立寄り、愛人の所在を間狂言に尋ねるくだりで、観世、宝生ではワキが「花子といひし女」、「花子の事を」などと、本名の花子で呼ぶが下懸り諸流の謡本では花子の名を一切使用せず、班女で通している。つまりワキが既に班女と言うあだ名を知つているわけで、狂言方の間狂言セリフと対応している。観世・宝生の文句はその点観世流謡本所載のセリフに応ずるわけであるが、これは必ずしも一体の関係にあるものではない。観世流謡本も、古写本はもとより、光悦本・玉屋本・元和卯月本など江戸初期の本はすべて「班女」であり、「花子」は使つていない。能楽研究所の蔵本だけで調べたところでは、寛文年間の本はまだ班女であり、元禄四年の本以後が花子になつている。従つて、観世流謡本がワキセリフを班女から花子に変更したのは、延宝・天和・貞享の頃で、比較的新らしい。変更した理由は、班女ということばの意義が明確に意識されるにつれて、はじめからワキが班女と呼ぶことは適わしくないと考えられたためであろうか。

宝生流が延宝以後の観世流謡本と同様であることは、ちよつと面白い。宝生流の詞章はある所は観世より下懸りに近く、ある所は室町期の観世流謡本と一致し、ある所は宝生流独自の文句だつたりで、その性質を一概に規定できないが、江戸初期の観世流謡本と異なり、中期以後の本文と同一である例は、あまり多くないように思う。（33・11・4）

銕仙会だより

――卅四年度上演曲目のアンケート――

昭和卅四年度銕仙会上演希望曲をこのたびもまた、皆様方から御選び頂く事になり、過日御希望曲の回答紙を御手許にまで御送り申上げました。

締切は十一月十日でございますので、このアンケートの発表は十二月に致す予定でございます。皆様方の御希望に副い、よりよい番組編成をと主催者一同、考慮致しております故、何卒御期待下さいませ。

――**水野洋三古稀祝賀会**――

永年銕仙会の一員として勤められた水野洋三氏の古稀祝賀会が左のように催されました。

第一日　十一月二日　午前九時
祝賀素謡会　於青山舞台
第二日　十一月三日　午前八時半
銕仙会同門会　於喜多能楽堂

理事会開催

一、日時　昭和卅三年十月廿日
　　午後三時
一、議題
　1　定款第条（会員資格）審議の件
　2　右に伴い会員申込規定変更の件
　3　昭和卅四年度編成番組曲目アンケートの件
　4　其の他

以上

